

資料1-1

第3回 三原川水系河川整備計画 検討懇談会 議事概要

事項	第3回 三原川水系 河川整備計画 検討懇談会	参加者	別紙参照
日時	平成19年6月7日 15:00～17:00	場所	南あわじ市 中央庁舎別館会議室
内容	1. 開会 2. 開会のあいさつ 3. 議事 (1) 第2回三原川水系河川整備計画検討懇談会議事録の確認 (資料1-1, 1-2) (2) 河川整備計画の目標と実施に関する事項(外水対策) (資料2) 4. その他(連絡事項) 5. 閉会		
資料	資料1-1 : 「第2回三原川水系河川整備計画検討懇談会」議事概要 (非公開) 資料1-2 : 「第2回三原川水系河川整備計画検討懇談会」議事録 (非公開) 資料2 : 河川整備計画の目標と実施に関する事項(外水対策) 資料3 : 今後のスケジュール 別表 : 三原川水系河川整備計画検討懇談会名簿		



1. 開会

「第3回 三原川水系河川整備計画検討懇談会」が開会した。
配布資料の確認を行った。
事務局メンバーの紹介を行った。



2. 開会のあいさつ

淡路県民局県土整備部長より開会の挨拶を行った。

3. 議事

第2回三原川水系河川整備計画検討懇談会議事録の確認(資料1-1,1-2)

第2回三原川水系河川整備計画検討懇談会の議事概要について、事務局より説明を行った。
第2回三原川水系河川整備計画検討懇談会の議事概要の内容について、了承された。議事概要、議事録の修正については、1週間を締め切りとし、6/14までに事務局に連絡する。
事務局は、修正後の議事概要・議事録について、個人名を伏せて公開する。

凡例
委) 委員意見
事) 事務局回答
傍) 傍聴者意見

河川整備計画の目標と実施に関する事項(外水対策)(資料2)

- 委) 改修区間の延長について、これまでの改修と比較して、これからの改修がここまでペースアップできるのか。
- 事) 地盤が悪いといったこともあり厳しい延長ではあるが、本来なら約40kmの整備をすべきところなので、精一杯頑張れる範囲ということで12kmに定めている。
- 委) S54の工事が終わっている中でこれからの改修はどのように進むのか。
- 事) 提示している断面形状での改修を計画しているが、基本的には現況に合わせ、大幅な改修はできる限り少なくして工事を進めていきたい。一部大きく広げる部分も出てくるので、用地等のご協力をいただきたい。
- 委) これまで、3回の浸水を被っており、その度に家屋をかさ上げしてきている。家屋の浸水被害は絶対にならないように願う。
- 委) 改修した2.8kmとはどの区間か。倭文川での長田川合流までも含んでいるのか。
- 事) 工事は松島橋の下流までなので、倭文川は入っていない。
- 委) もともとの計画に倭文川と大日川の改修もあった。30年のうちにやるというのは、S54災害に対応した現在進めている計画を早めるということか。
- 事) 今回の計画は、H16の台風23号の被害を踏まえ、事業をより早く進めていきたいという意向で見直しを行ったものである。
- 委) 地球温暖化によって潮位の考え方等が変わってきているのか。
- 事) 河口の最初の出発水位は最新の結果で変えている。H19での港湾で設定している水位で計算し、検討している。
- 委) 三原川本川への放流も考えて計画しているのか。
- 事) 本川への放流も考えた改修である。
- 委) 内水排除の余裕がないといけない。放流断面という面からも外水を考えてほしい。
- 事) 加味して計画している。
- 委) 4日前に大日川の潮止堰が潮位を超えた。

- 委) S54 洪水に対する流下能力の不足区間がかなりある中で、余裕高のない状態は危険である。各河川の水位を低下させるためにトンネル工法をとってはどうか。
- 事) 地下放水路は、概略で検討する限り、予算規模的に大きくなり困難である。(パワーポイントで説明)
- 委) H16 台風 23 号規模での対応とした場合での概算で予算規模が何倍程度になるか示してはどうか。
- 事) 次回以降で提示したい。
- 委) 河口左岸が一番早い改修になると思うが工法的にどのようなものか。住民への対応についても考えているのか。
- 事) 事業着手時に地元協議を行い、調整させていただきたい。
- 委) 地元代表として出席している上で、地元からの問い合わせが多い。できるだけ早く住民を納得させてほしい。
- 事) 整備計画の策定後、できるだけ早く進めたいと考えているが、予算の見通しがついていないため、現段階では詳細についてお答えし難い。
- 委) 三原川の縦断図において、成相川上流の堤防が低くなるようであるが堤防を低くするか。
- 事) 可能な限り効率的な改修を考えている。
- 委) 3時間雨量はS54 洪水の方が多いにもかかわらず、計画流量はH16 台風 23 号の方が多くなるのはなぜか。
- 事) H16 の台風 23 号では、ダムができたことによりピーク流量が減少したためである。
- 委) S54 洪水よりH16 台風の方が浸水被害が小さいということか。
- 事) 詳細は次回整理して説明させてもらう。
- 委) S54 に比較して、H16 の方が、さまざまな川から氾濫し、規模が大きくなる。

傍聴者意見

- 傍) 淡路では、H16 台風 23 号の後で、洲本川、三原川、志筑川、育波川、それぞれの洪水被害についての概要と対策の提言がまとめられ、洲本川や志筑川は工事が進んでおり、都志川でも改修が進められているが、なぜ、ここまで三原川の改修が進んでいないのか。
- 事) 現在、倭文川の改修を着手している状況にあるが、整備を進める上では、用地・物件補償が必要なので、今後、整備計画をできるだけ早く進めていくために協力をお願いしたい。
- 傍) 用地協力は行う。脇田地区では無償で提供するという話もあり、住民も協力をを行うが、行政としてあまり差があり過ぎると、住民も疑問が残るところを受け止めてほしい。
- 委) 今年の台風までに工事を行うということで無償提供を行っているが、工事着手されていない。
- 事) 現在、準備中である。
- 委) 倭文川のどこを改修しているのか。
- 事) 三原川との合流点の工事を行っている。
- 委) H16 台風後、あまり進んでないように見えるが、何が問題なのか。
- 事) 約 10m の鋼管杭を打ち終わったところである。
- 委) 工事は全部終わったのか。
- 事) 護岸工事が残っており、近々実施する。

- 委) 用地補償に時間がかかるとあるが、流地区については、H16 台風後、長田川の改修について、用地は地元で確保するという要望書を知事に出してある。用地提供のある所は優先的に工事を進めてもらえるのか。
- 事) 用地を提供いただける箇所を優先的に進める状況ではあるが、限られた予算の中では必ずしも優先的というわけにはいかない。より緊急を要する場所から進めることもある。今回の流地区は災害の単独債や関連、助成には該当していないと思う。
- 委) 流地区は何が該当していないのか。
- 事) 現地で確認したい。

4. その他(連絡事項)

- 第4回に内水対策及び利水・環境の目標と実施に関する事項を行う。
- 第4回検討懇談会の開催日は、7月～8月で調整する。

5. 閉会

- 「第3回 三原川水系河川整備計画検討懇談会」が閉会した。

別紙

< 委員 >

	名 前	職 名	所属及び専門	出欠
1	道奥 康治	神戸大学工学部教授	学識経験者(治水)	
2	藤原 道郎	兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授	" (自然環境)	
3	宮崎 祐三	南あわじ市立三原中学校教頭	" (地域文化)	
4	芝 壽浩	南あわじ市連合自治会長	住民代表	×
5	山野 均	" 緑支部長	"	
6	大石 忠男	" 西淡支部長	"	
7	丹羽 啓裕	" 三原支部長	"	
8	奥井 光子	南あわじ市連合婦人会長	"	
9	宇治田 勝	内水ブロック代表(古津路地区)	"	
10	広岡 信吾	" (江尻地区)	"	代理
11	大住 恵康	" (志知川地区)	"	
12	杉本 勝司	" (倭文流地区)	"	
13	宮本 忠彦	" (志知松本地区)	"	
14	済藤 孝信	南あわじ市商工会	関係団体	代理
15	倉本 満之	あわじ島農業協同組合代表理事	"	
16	平石 剛敏	湊漁業協同組合長	"	
17	長江 和幸	南あわじ市収入役	関係行政機関	
計				16名

< 事務局 >

	名 前	職 名	出欠
1	荒柴 敏夫	淡路県民局県土整備部長兼洲本土木事務所長	
2	濱 浩二	" 洲本土木事務所企画調整担当主幹	
3	石井 孝知	" 河川砂防課長	
4	市村 徹也	" 課長補佐	
5	森田 伸二	県土整備部土木局河川計画課長	×
6	岩谷 晴雄	" 計画係長	
7	熊田 登宇	" 主査	
8	松井 三思呂	" 河川整備課治水係長	×
9	石田 靖	" 主査	×
10	吉川 満広	南あわじ市都市整備部長	
11	榎本 尚	" 次長	
12	水田 泰善	" 管理課長	
13	野田 博	" 建設課長	
14	中田 明樹	" 農業振興部長	

< 傍聴者 >

2名